

PASSION通信

平成28年6月1日～平成29年5月31日

連結財務ハイライト
ごあいさつ
連結財務諸表

サカタのタネ

PASSION in Seed

Topics

「第33回 全国都市緑化よこはまフェア」に
当社協賛花壇などを出展

Special 1.

開発ストーリー

時代をリードするサカタブランドの品種
～メロン編～

Special 2.

海外子会社便り サカタ・オーナメンタルズ・ヨーロッパ

Special 3.

温故知新 | サカタのタネ ルーツを探る！ 物語②-後編

Vol.5

第76期
株主通信



株式会社 サカタのタネ
SAKATA SEED CORPORATION

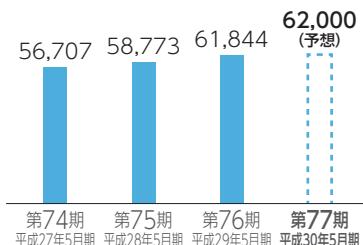
証券コード 1377

連結財務 ハイライト

ごあいさつ

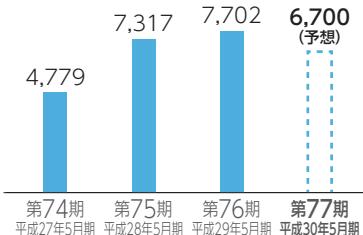
売上高

(単位: 百万円)



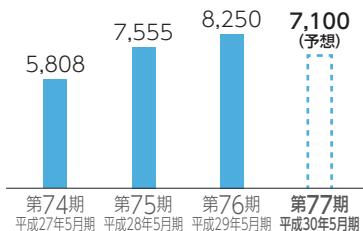
営業利益

(単位: 百万円)



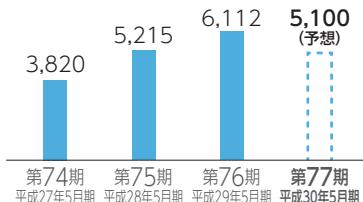
経常利益

(単位: 百万円)



親会社株主に帰属する 当期純利益

(単位: 百万円)



株主の皆様におかれましては、平素から格別のご高
ここに当社グループ第76期 (平成28年6月1日～平成29年5月

当期の業績

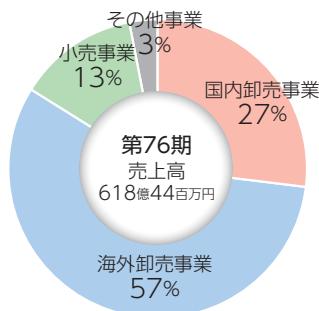
当社グループの当期の連結業績は、前期に比べ増収増益となり、昨年度に
続き過去最高益を更新することができました。

具体的には、売上高は618億44百万円 (前期比5.2%増)、営業利益は、
77億2百万円 (前期比5.3%増)、経常利益は82億50百万円 (前期比9.2%増)、
親会社株主に帰属する当期純利益は61億12百万円 (前期比17.2%増) とな
りました。

前期に引き続き、国内・海外ともに収益性の高い野菜種子の売上が好調に
推移しました。

海外では、ブロッコリー、トマト、カボチャ、ハウレンソウ、メロンなど
の野菜種子の売上が大きく伸び、花種子につきましても、トルコギキョウ、
ヒマワリなどの販売が、アジアや欧州を中心に好調に推移したことから、増
収増益となりました。

事業部別売上高構成比



国内では、ブロッコリー、ネギ、レタスなど
の野菜種子が大幅に売上を伸ばしました。花種
子は市況の停滞による作付減が響き、微減とな
りました。小売事業については、不採算商品の
削減を進めたことから、売上高は前期比大幅な
減収となりましたが、業務コストの圧縮にも努
めた結果、利益面では大きく改善いたしました。
その他事業の造園緑花分野では、民間・公共
の大型工事完工及び維持管理業務の増加により、
前期比大幅な増収増益となりました。

配を賜り、厚く御礼申し上げます。

31日)の業績ならびに次期の見通しについてご報告いたします。

次期の見通し

種子の販売は、堅調に推移するものと予想しており、連結売上高620億円、親会社株主に帰属する当期純利益51億円を予想しております。

海外では、野菜種子は引き続き多品目において伸びが予想され、花種子についても、トルコギキョウの大幅な伸びが期待され、増収を見込んでおります。

国内では、ブロッコリー、レタス、ネギなど、野菜種子は堅調に推移するものと予想しております。花種子も、前期の市況から作付けは前期並みになると見込んでおります。

小売においては、次期も採算性の改善に注力していくことや、その他事業の造園緑花分野においては、大型工事完工の反動減から、減収を見込んでおります。

これらにより、売上高は次期も安定的に推移すると予想しており、連結売上高は620億円(当期実績比100.3%)を見込んでおります。一方、当社は、高品質でオリジナル性の高い種苗を継続的に創出するための研究開発を強化し、またグローバルカンパニーとしての体制強化や効率的な生産・技術体制の構築に向けた費用の増加を見込んでいるため、営業利益は67億円(当期実績比87.0%)、経常利益は71億円(当期実績比86.1%)、親会社株主に帰属する当期純利益は51億円(当期実績比83.4%)と、減益を予想しております。



代表取締役社長

坂田 宏

利益配当に関する方針

利益配分につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と考え、中長期の経営視点から、各期の連結業績を勘案し、経営体質及び経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、かつ安定的、継続的な利益配分を行うことを基本方針としております。

当期の配当につきましては、中間配当はこの方針に基づき1株につき10円、期末配当は前期に引き続き親会社株主に帰属する当期純利益が過去最高益を更新したことから、**普通配当を15円とし、特別配当3円を加え、合わせて1株につき18円の配当を実施することを決定いたしました。**

第76期の配当金額

	中間配当	期末配当	年間
1株当たり配当金	10円	18円(特別配当3円含む)	28円

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	平成28年5月31日現在	平成29年5月31日現在
資産の部		
流動資産	64,864	72,016
固定資産	43,995	44,152
資産合計	108,859	116,169
負債の部		
流動負債	10,970	14,545
固定負債	9,002	7,530
負債合計	19,972	22,075
純資産の部		
株主資本	86,796	91,780
その他の包括利益累計額	1,949	2,152
非支配株主持分	141	160
純資産合計	88,886	94,093
負債・純資産合計	108,859	116,169

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	平成27年6月1日から平成28年5月31日まで	平成28年6月1日から平成29年5月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,384	7,613
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,430	△2,901
財務活動によるキャッシュ・フロー	335	△2,016
現金及び現金同等物に係る換算差額	△431	△57
現金及び現金同等物の増減額	858	2,637
現金及び現金同等物の期首残高	10,639	11,497
現金及び現金同等物の期末残高	11,497	14,134

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	平成27年6月1日から平成28年5月31日まで	平成28年6月1日から平成29年5月31日まで
売上高	58,773	61,844
売上原価	27,539	28,269
売上総利益	31,234	33,574
販売費及び一般管理費	23,916	25,871
営業利益	7,317	7,702
営業外収益	731	868
営業外費用	493	321
経常利益	7,555	8,250
特別利益	13	104
特別損失	64	36
税金等調整前当期純利益	7,503	8,318
法人税等合計	2,260	2,172
当期純利益	5,243	6,145
非支配株主に帰属する当期純利益	27	33
親会社株主に帰属する当期純利益	5,215	6,112

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



「第33回 全国都市緑化よこはまフェア」に 当社協賛花壇などを出展

当社がオフィシャルスポンサーとなった「第33回 全国都市緑化よこはまフェア」が平成29(2017)年3月25日から6月4日まで横浜市内で開催されました。当社はプラチナスポンサーとして協賛しており、当社開発のオリジナル品種の提供や花壇の出展を行って会場を飾り、フェアを盛り上げました。

フェアは「みなとガーデン」と「里山ガーデン」の、横浜の2カ所の会場で行われました。

「みなとガーデン」は山下公園、横浜公園、象の鼻パークなど、横浜市の中心部を舞台にした展示です。当社は、「横浜公園フォトスポット」にフリンジ咲きチューリップ「ラバースタウン」2万本を提供し、「恋の街ヨコハマ」を演出しました。



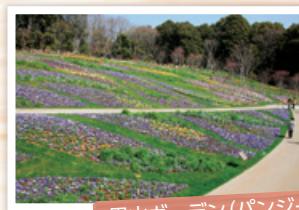
横浜公園

また、象の鼻パーク「もてなしの庭」の当社出展花壇「レッドクリフ」では、三国志の「赤壁の戦い」をテーマに「赤」を基調とした花壇を作り、アメリカと欧州で最高賞をダブル受賞したジニア「プロフュージョンレッド」を立体的に燃えるように配置しました。



当社出展花壇「レッドクリフ」

横浜市北部にある「里山ガーデン」では、当社のパンジーやペチュニア「バカラ」シリーズなどが花壇を飾りました。



里山ガーデン(パンジー)

同フェアの中心的行事「全国都市緑化祭」では、当社は「第4回 みどりの社会貢献賞」を受賞しています。



サカタのタネ



時代をリードする
サカタブランドの品種

メロン編



アンデス

これまでにないものを創りたい。お客様に喜ばれる、色とりどりの花、味わい豊かな野菜をお届けしたい。当社の品種開発の歴史は、この想いの軌跡でもあります。

サカタのタネでは、お客様のさまざまなニーズに応えた品種開発を行っております。

今回ご紹介するのは、甘くておいしい、みんなが大好きな『メロン』です。

農林水産省の区分では、果物ではなく“果実的野菜”に分類される「メロン」。かつては高級品だったメロンも、今や誰もが手軽に味わえるポピュラーな存在となりました。その“進化”を担い続けたのは、当社が飽くなき情熱で開発してきた多くの画期的な品種です。

1. 古くからのマクワウリと高級路線のマスクメロン

遠く離れた中央アジアまたはアフリカ原産と考えられているメロンの、日本における歴史は意外と古く、中国を経て渡来したのは弥生時代といわれています。もたらされた品種はメロンの一変種で、香りや甘みはやや薄く、あっさりした風味の「マクワウリ」。明治以降になると西洋メロンも日本に伝わりますが、ガラス温室で育てられる皮に網目模様(ネット)が入った「マスクメロン」はもっぱら贈答用などに供される高級品でした。

なお、昭和6(1931)年刊行の当社カタログ「園の泉」巻号には、マクワウリに加え、10種類以上のマスクメロンの品種が掲載されています。



マクワウリ



「園の泉」

2. 新たな時代を切り拓いたメロン界の王子様

昭和37(1962)年、このマクワウリとマスクメロンの間に割って入ったのが、当社開発の品種「プリンス」です。当社の創業者・坂田武雄がヨーロッパから持ち帰ったキャンタロープ種の「シャランテ」と日本のマクワウリの「ニューメロン」を交配した「プリンス」は、高温多湿な日本でも露地栽培ができて収穫量も多く、マクワウリを圧倒する香りと甘みで、瞬く間に日本全国に普及していきました。

この「プリンス」の販売を機に、当社では産地への栽培指導と市場プロモーション活動も開始。現在に至る当社の産地指導・営業の基礎が築かれました。「プリンス」は次代を担う“王子様”として、露地栽培メロンの新たな潮流を生み出したのです。



プリンス

3. 高級品から、安心できるみんなのメロンへ

そして昭和52(1977)年、当社はトンネル栽培やビニールハウス栽培が可能で、優れた味わいのネットメロン「アンデス」の開発に成功しました。「アンデス」は今なおネットメロンの中で大きなシェアを占めるロングセラー品種で、高級品だったメロンを多くの人々が気軽に食べられるようにした、まさに画期的な品種でした。

ちなみに、その名前から南米原産と誤解されそうですが、品質が安定しているため、「つくって安心、売って安心、買って安心」の「安心です」から、メロンを食べる時のように種のある「しん(芯)」を取って「アンデス」としたのが品種名の由来です。

4. さらに“進化”で、もっと身近に、いっそうおいしく

当社はその後も、高級品種のアールスメロンの外観や食味を手頃な価格で提供することを可能にした「アールスナイト」シリーズなど、進歩的なメロンを世に送り出してきました。そして平成23(2011)年には、ベランダなどでコンテナ栽培できる手のひらサイズのネットメロン「ころたん®」を発表。プロでなければ栽培が難しいと思われていたメロンが、自宅で簡単にしてくれるようになるその革新性を、市場は喜びと驚きをもって迎えました。

さらに平成27(2015)年、当社は38年ぶりとなる「アンデス」シリーズの新品種「赤いアンデス」を発表しました。それまで緑色だったアンデスの果肉を、その名の通り、鮮やかなオレンジ色に変えたこの新品種は、従来の赤肉メロンより食べ頃の状態が長く続き、贈答用としても喜ばれています。

飽くなき試行錯誤を積み重ねながら、メロンをより身近な存在に、そして、より高品質においしく進化させてきたサカタのタネ。私たちはこれからも、世の中をあとと驚かせ、皆様に喜んでいただけるような、魅力あふれる新しいメロンづくりを追求してまいります。



アールスナイト



ころたん



赤いアンデス



発売40周年

『アンデスメロンキャンペーン』
実施

当社では、今年で発売40周年を迎えたネットメロンの代表品種「アンデス」の魅力をアピールするために、4月から8月にかけて、各種プレゼントが抽選で当たる『アンデスメロン キャンペーン』を実施し、多数のご応募をいただきました。また、5月13日(土)には横浜ランドマークプラザ1階「サカタのタネ ガーデンスクエア」でキャンペーンイベントも開催。トークショーや試食サンプリングなどで大いに盛り上がりました。



海外子会社便り

Sakata Ornamentals Europe A/S

(サカタ・オーナメンタルズ・ヨーロッパ)

種苗ビジネスに、国境はありません。当社では「北・中米」「南米」「アジア・オセアニア」「ヨーロッパ・中近東・アフリカ・ロシア」という世界4極体制のもと、各エリアに統括会社を展開しています。

その中から今回は、ヨーロッパにおける花き部門の中核子会社 サカタ・オーナメンタルズ・ヨーロッパを紹介いたします。



ヨーロッパにおける花き事業の一大拠点

北米・中米進出を果たした昭和50年代から時代が平成へと移り変わると、当社はヨーロッパでも事業に乗り出しました。そして創業90周年を迎えた平成15(2003)年、そのヨーロッパの地に当社の2つの大きな事業拠点が誕生します。一方が、前回ご紹介したヨーロッパ・中近東・アフリカ・ロシアにおける野菜部門の中核会社サカタ・ベジタブルズ・ヨーロッパ(SVE)、そしてもう一つが今回ご紹介する、ヨーロッパでの花き事業の拠点となるサカタ・オーナメンタルズ・ヨーロッパです。

その前身は、当社が買収したデンマークの大手種苗会社デンフェルト社の花き部門と2つの子会社です。160年以上の歴史を持ち、100ヵ国以上の国々に花きと野菜の種子や苗を販売していた同社の買収を通じて、豊富な育成品種や遺伝資源、高度な研究技術なども当社が継承しまし

た。また、従来のパンジーとトルコギキョウに加え、デンフェルト社が有していた「プリムラ」「鉢物用ガーベラ」の世界トップシェアについても、当社が受け継ぎ確立しています。

サカタ・オーナメンタルズ・ヨーロッパのあるデンマークの都市オーデンセは、欧州・北米の巨大市場向けの品種育成に気候的に適したヨーロッパ北部に位置しています。設立以降、ヨーロッパにおける当社の花きの育種・試作の研究、さらに、マーケティング・配送の拠点として重要な役割を果たしてきました。

切り花や鉢物、花壇用草花の需要が高いヨーロッパ北部市場を見据える同社は、主要種子系草花の品目の拡充を図りながら、高品質な種子・苗の迅速な配送など高度なサービスを通じて、多くの顧客から高い評価を獲得しています。



Sakata Ornamentals Europe A/Sの概要

- 所在地
デンマーク オーデンセ
- 資本金
133,915千デンマーククローネ
- 主な事業
欧州における花き種子の育種、生産、販売

温故
知新

サカタのタネ ルーツを探る！ (物語 2 -後編 下)

通信販売と売店営業で種苗業を再開

昭和23(1948)年4月に横浜市神奈川区に土地を借りて社屋を建設。若く優秀な人材が次々と入社した坂田種苗は、品種育成と優れたF₁品種(一代雑種)の作出を行い、徐々に業績が伸びていった。

花きの営業・販売を行う「園芸部」は、当初営利栽培家を対象に種子や球根を販売していたが、次第に種苗店や園芸店などに園芸資材、球根や花種子の袋詰めなどを販売し始めた。総合カタログを発送し、通信販売で注文を受けたのだ。球根や苗木は園芸部が委託生産を行い、最高品質のものを顧客に届けるよう万全の注意を払った。

昭和25(1950)年からは「直売部」を設け、戦前からの伝統を誇る一般向けの通信販売の再開と新たに売店営業を開始。特に通信販売の再開は重要で、戦後に増えた園芸愛好家向けの記事を充実させた月刊誌「園芸通信」を「園の泉」趣味号の体裁を一新して創刊した。

昭和26(1951)年12月1日、本社1階にオープンした売店部は日本ではまだ珍しかった園芸店のはしりとなった。

昭和30(1955)年前後に初めて種子の貯蔵庫が完成、本社1階玄関横に試験室もできた。ここでは種子の生理的な研究を他社に先駆けて始めるとともに、輸出用種子の絵袋の材質も検討、試作にも取り組んだ。外国製絵袋を参考に密封度テストなどを繰り返し、種子の保全に万全の配慮をし、また発芽率を明記するなど、顧客の安心度を高める工夫を施した。

「園芸通信」創刊号



会社概要／株式の状況 (平成29年5月31日現在)

会社概要

- 商号 株式会社 **サカタのタネ**
- 英文社名 **SAKATA SEED CORPORATION**
- 創業年月 大正2年(1913年)7月
- 設立年月 昭和17年(1942年)12月
- 資本金 135億円
- 本社 横浜市都筑区仲町台二丁目7番1号
- 従業員数 680名(連結 2,275名)

■ 主な海外拠点

- ・アメリカ ・メキシコ ・グアテマラ ・ブラジル
- ・チリ ・韓国 ・中国 ・タイ
- ・インド ・フランス ・デンマーク ・オランダ
- ・イギリス ・スペイン ・トルコ ・南アフリカ

■ 国内拠点

本社

事業所・営業所／北海道支店 東日本支店 仙台営業所
成田事業所 西日本支店 名古屋営業所
九州支店

物流拠点／矢板物流センター

研究拠点／北海道研究農場 君津育種場 三郷試験場
掛川総合研究センター

直営店／ガーデンセンター横浜

関係会社／

- (株)山形セルトップ (株)長野セルトップ
- (株)飛騨セルトップ (株)福岡セルトップ
- (株)サカタロジスティックス 日本ジフィーポット・プロダクツ(株)
- (有)サカタテクノサービス (株)プロリード
- たねとファーム(株)

株式の状況

- 発行可能株式総数 104,000,000株
- 発行済株式の総数 48,410,750株
- 株主数 24,968名

■ 所有者別株式分布状況



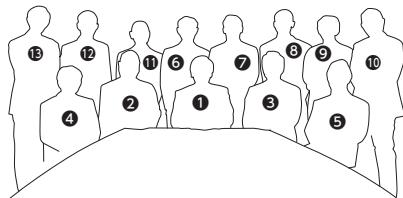
■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社ティールエム興産	7,607,996	15.71
株式会社みずほ銀行	2,245,500	4.63
株式会社三井住友銀行	1,990,760	4.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	1,681,400	3.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	1,360,900	2.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口9	828,900	1.71
株式会社横浜銀行	744,047	1.53
キッコマン株式会社	678,000	1.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口5	607,900	1.25
丸一鋼管株式会社	600,200	1.23

(注)当社は、自己株式3,409,118株を保有しておりますが、上記10位からは除外して記載しております。

役員

(平成29年8月29日現在)



- | | | | | | |
|---|-----------|--------|----|-----------|-------|
| 1 | 代表取締役社長 | 坂田 宏 | 8 | 取締役上席執行役員 | 古木 利彦 |
| 2 | 常務取締役 | 内山 理勝 | 9 | 取締役(社外) | 菅原 邦彦 |
| 3 | 常務取締役 | 加々美 勉 | 10 | 取締役(社外) | 井原 芳隆 |
| 4 | 取締役上席執行役員 | 金子 英人 | 11 | 常勤監査役 | 遠田 光雄 |
| 5 | 取締役上席執行役員 | 本田 秀逸 | 12 | 監査役(社外) | 長谷川 上 |
| 6 | 取締役上席執行役員 | 宇治田 明史 | 13 | 監査役(社外) | 沼田 安功 |
| 7 | 取締役上席執行役員 | 黒岩 和郎 | | | |

上席執行役員 中井 智二 米本 丈夫
 執行役員 黒木 達司 三浦 高明 齋藤 弘佳 高宮 全 土門 賢一 榎本 真也 川村 学 小津 聡子

株主様向け
アンケート

株主の皆様のお声を お聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 1377

いいかぶ

検索

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エーツーメディア)の提供する
「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なし
にこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

当社では、株主の皆様はもとより、
顧客の皆様方の満足度向上を目指し、
「お客様相談室」を設けております。

お客様相談室

TEL 045-949-8137

(受付時間：平日 午前9時~午後5時)

株 主 メ モ

事業年度	6月1日~翌年5月31日
配当金受領 株主確定日	期末 5月31日 中間 11月30日
定時株主総会	毎年8月下旬
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料)
郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所(証券コード 1377)
公告の方法	日本経済新聞

(ご注意)

株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続き
につきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ
ください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱い
できませんのでご注意ください。なお、未受領の配当金につき
ましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

株式会社 サカタのタネ

〒224-0041 横浜市都筑区仲町台2-7-1
TEL 045-945-8800(代)

UD FONT
by MORISAWA

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

